

# かながわの学びの充実・改善のために

平成 29 年度全国学力・学習状況調査  
神奈川県公立小・中学校調査結果の分析・活用資料



## 児童・生徒の皆さんへ

県教育委員会では、全国学力・学習状況調査の結果を受けて、小・中学生の「文章を書くチカラ」をもっと伸ばしたいと考えています。

児童・生徒の皆さんへの提案です。一日一行、文章を書く習慣を身につけましょう。県教育委員会では、[365一行日記]のフォーマットをホームページに掲載しています。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f531252/>



## 教職員の皆さんへ

あらゆる場面で、一人ひとりのよい点や可能性に目を向け積極的に伝えるなど、児童・生徒の自己肯定感をはぐくむ取組を進めていきましょう。

各学校で行っている授業改善の取組が、確実に児童・生徒の「授業に対する意欲的な姿勢」や「伝えたいことを適切に話す力」につながっていることが、全国学力・学習状況調査の結果から明らかになっています。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f531252/>

平成 29 年 10 月  
神奈川県教育委員会

## 本資料作成の趣旨

県教育委員会では、県内公立小・中学校の児童・生徒の学力\*1向上のため、市町村教育委員会及び学校との連携・協力の下、平成20年度から「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業\*2」を実施するなど、各学校における指導方法の工夫・改善、研修・研究を推進してきました。

\*1 学力…学校教育法第30条において次のように示されています。  
「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」

\*2 かながわ学びづくり推進地域研究委託事業…平成20年度に中井町教育委員会から研究委託がスタートし、以降平成27年度までに政令・中核市を除く29市町村で取り組む。現在も継続実施中。

各教育委員会や各学校が、学力向上の取組の成果や課題を把握し、更なる充実・改善を図るために、毎年度実施される全国学力・学習状況調査の結果を分析・活用することは重要です。

昨年度、県教育委員会では、平成28年度全国学力・学習状況調査の「児童生徒質問紙調査」「学校質問紙調査」「教科に関する調査」の結果を総合的に分析し、本県の強み（3項目）と課題（2項目）を整理しました。

これを踏まえ、今年度の全国学力・学習状況調査（平成29年4月18日実施）の本県公立小・中学校の調査結果を分析したところ、昨年度と同様の強みと課題が見られました。

そこで、今後、各学校がこの強みを生かし課題を改善するために必要と考えられる取組等を「学びの充実・改善ポイント」としてまとめ、新たに示すこととしました。

市町村教育委員会及び学校では、本資料を参考に、それぞれの地域・学校における強みと課題を踏まえた、学びの充実・改善に向けた取組の推進をお願いします。

## 本資料の構成

I	平成29年度全国学力・学習状況調査の概要	・・・	3
II	本調査結果資料の活用にあたって	・・・	3
III	かながわの強みと課題	・・・	4
IV	学びの充実・改善ポイント	・・・	9
V	平成29年度全国学力学習状況調査 神奈川県公立小・中学校調査結果（詳細）	・・・	17
VI	学びの充実・改善に向けて参考となる情報 神奈川県教育委員会の主な取組等	・・・	24

## I 平成 29 年度全国学力・学習状況調査の概要

### 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

出典：平成 29 年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領（文部科学省）

### 2 調査方式 悉皆調査

【参考】H19～H21：悉皆、H22～H24：抽出（H23：震災で中止）、H25～：悉皆

### 3 調査期日 平成 29 年 4 月 18 日（火）

### 4 集計学校数、児童・生徒数（対象者：小学校第 6 学年児童、中学校第 3 学年生徒）

神奈川県全体では 1,278 校、約 13 万 6 千人の児童・生徒が参加した。

内 訳：小学校 851 校、中学校 409 校、特別支援学校 小学部 7 校、中学部 5 校、中等教育学校 2 校 義務教育学校(前期) 2 校 義務教育学校(後期) 2 校

参加人数：小学校調査 約 7 万 1 千人、中学校調査 約 6 万 5 千人

【参考】県域（政令指定都市を除いた地域）では 512 校、約 5 万 1 千人の児童・生徒が参加した。

内 訳：小学校 328 校、中学校 175 校、特別支援学校 小学部 4 校、中学部 3 校、中等教育学校 2 校

参加人数：小学校調査 約 2 万 6 千人、中学校調査 約 2 万 5 千人

### 5 調査事項

①児童・生徒に対する調査：国語(A, B)、算数・数学(A, B)、質問紙調査

②学校に対する質問紙調査

【参考】A：主として「知識」に関する問題 B：主として「活用」に関する問題

### 6 調査結果の解釈等に関する留意事項

○本調査結果は、児童・生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であり、また、学校における教育活動の一側面である。

## II 本調査結果資料の活用にあたって

各市町村教育委員会や各学校では、次のような事項に留意して本調査結果の活用や取組の推進を図る必要があります。

◆ 本調査結果で示す数値等は、県全体の状況や傾向を示すものであることから、「学びの充実・改善ポイント」を参考にして

- ・ 市町村教育委員会では、各市町村の状況や傾向、所管する学校ごとの様々な状況や傾向等を把握し、個に応じた取組や指導助言の充実・改善を図ること。
- ・ 学校では、各学校の状況や傾向、児童・生徒個々の学習状況等を把握し、児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援の充実・改善を図ること。

◆ 本調査の分析・検証の結果を学校全体で共有し、調査実施以外の学年や実施教科以外の教科等の指導改善等にも活用すること。

◆ 学校では、本調査の分析・検証の結果を保護者や地域の方とも共有し、連携を取りながら、家庭・地域における学習習慣や生活習慣の充実・改善を図ること。

### Ⅲ かながわの強みと課題

- ・〔設問の開始年度、平成 28 年度、平成 29 年度〕の 3 カ年を抽出してその数値を示しました。
- ・「児童生徒質問紙」「学校質問紙」の各数値は、それぞれの設問に肯定的な回答をした人数及び学校数の割合を%で表しています。

平成 29 年度全国学力・学習状況調査の本県公立小・中学校の調査結果を分析したところ、昨年度と同様の強みと課題が見られました。

#### 強み1

### 授業での活発な言語活動（話し合い活動等）により、児童・生徒の「伝えたいことを適切に話す力」が養われています！

児童・生徒が話し合い活動に向かう姿勢が向上しています。そのことと、国語の「話すこと・聞くこと」領域や数学の「数学的な見方や考え方」の観点での平均正答率との関連が考えられます。

こうしたこと背景には、学校において、教員が、言語活動を重視した授業改善を進めていることや「目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業」を意識的に行っていることがあると考えます。

#### 関連データ

<「児童生徒質問紙」より>

○友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。

【小】	県	H25 : 48.3%	→H28 : 53.2%	→H29 : 53.4%
	国	49.6%	51.7%	52.2%
【中】	県	H25 : 49.1%	→H28 : 51.5%	→H29 : 51.7%
	国	48.3%	50.2%	50.5%

○友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。

【小】	県	H25 : 90.1%	→H28 : 92.5%	→H29 : 93.9%
	国	91.3%	92.7%	94.3%
【中】	県	H25 : 89.4%	→H28 : 92.0%	→H29 : 93.7%
	国	90.9%	93.0%	94.6%

<「教科に関する調査」より>

○国語A「話すこと・聞くこと」領域の平均正答率

【小】	県	H19 : 56.6%[± 0]	→H28 : 79.9%[+0.7]	→H29 : 70.9%[+1.7]
	国	56.6%	79.2%	69.2%
【中】	県	H19 : 90.0%[-0.1]	→H28 : 79.5%[+0.6]	→H29 : 76.4%[+1.0]
	国	90.1%	78.9%	75.4%

\* [ ]は国との比較

<「学校質問紙」より>

○授業において、児童・生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。

【小】	県	H27 : 76.9%	→H28 : 82.7%	→H29 : 83.6%
	国	73.0%	80.1%	82.3%
【中】	県	H27 : 69.6%	→H28 : 77.7%	→H29 : 78.5%
	国	63.3%	72.6%	75.1%

## 強み2

# 児童・生徒の国語、算数・数学の授業に対する意欲的な姿勢が見られます！

児童・生徒の授業に対する前向きな姿勢がみられています。教員は、児童・生徒の授業に向かう熱意を感じ取っています。また、授業での規律も向上していると感じています。児童・生徒の授業に向かう姿勢、学習意欲は、知識・技能や思考力・判断力・表現力等とともに、確かな学力を形成する大切な力です。

### 関連データ

<「児童生徒質問紙」より>

○国語の勉強は好きですか。

【小】	県	H19 : 61.0%	→H28 : 60.2%	→H29 : 62.7%
	国	59.6%	58.3%	60.5%
【中】	県	H19 : 62.2%	→H28 : 61.6%	→H29 : 62.3%
	国	56.8%	59.8%	60.5%

○算数（数学）の勉強は好きですか。

【小】	県	H19 : 64.8%	→H28 : 66.2%	→H29 : 66.1%
	国	65.0%	66.0%	65.9%
【中】	県	H19 : 52.9%	→H28 : 57.7%	→H29 : 57.9%
	国	51.0%	56.0%	55.4%

<「学校質問紙」より>

○児童・生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか。

【小】	県	H19 : 88.8%	→H28 : 93.4%	→H29 : 93.7%
	国	90.6%	93.4%	94.2%
【中】	県	H19 : 86.6%	→H28 : 94.0%	→H29 : 95.3%
	国	84.0%	91.4%	91.7%

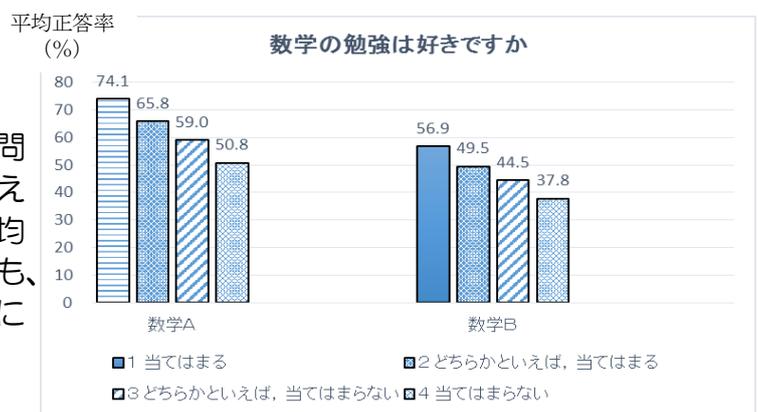
○児童・生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか。

【小】	県	H19 : 86.6%	→H28 : 91.1%	→H29 : 89.8%
	国	89.8%	90.5%	90.7%
【中】	県	H19 : 89.3%	→H28 : 96.2%	→H29 : 95.0%
	国	90.4%	94.5%	94.6%

## コラム

### 好きこそものの上手なれ

「数学の勉強は好きですか。」との質問に「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の方が平均正答率が高い傾向が見られます。国語でも、同様の傾向が見られます。また、小学校においても同様の傾向が見られます。



(H29 クロス集計 神奈川県)

外部講師を積極的に活用した校内研修が行われています。また、小中連携しての授業研究が活発になっています！

各学校では、外部講師を積極的に活用するなど、学校全体で授業研究の活性化が図られています。外部からの視点を入れることは、多様な視点からの授業改善につながります。また、学校間の小中合同研修や教職員同士の交流等が積極的に行われています。

関連データ

<「学校質問紙」より>

○学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか。

【小】 県 H19 : 96.4% →H28 : 97.5% →H29 : 97.2%  
 国 91.0% 93.0% 93.6%

【中】 県 H19 : 87.2% →H28 : 93.0% →H29 : 91.9%  
 国 83.1% 86.0% 88.4%

○近隣の中（小）学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか。

【小】 県 H28 : 74.2% →H29 : 75.7%  
 国 62.5% 65.6%

【中】 県 H28 : 77.3% →H29 : 81.6%  
 国 72.5% 74.8%

\*H28 新規項目

コラム

学びづくり 10 年間

平成 20 年度に開始された「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」により、各市町村教育委員会及び各学校で様々な学力向上の取組が実施されてきました。毎年度開催している「かながわ学力向上シンポジウム」等を通じて、その実践が県全体に広がっています。

◇次のような成果が見られています。

◇授業研究の取組が進みました

- グループでの事前協議の実施
- 子どもの見とりを大切にした授業展開
- 子どもの考えを繋げる授業展開
- 授業のねらいに応じた学習形態の工夫
- ワークシートの工夫
- 目的をもった机間指導
- 丁寧な板書
- 授業における人間関係づくり

◇研究協議が工夫されました

- 当該学級の子どもの感想などを踏まえた研究協議
- 付箋紙を用いた研究協議
- ワークショップによる研究協議
- 研究協議のまとめの作成と配付

◇校種を超えた取組がありました

- 異校種間の指導に関する意見交換の実施
- 教育委員会の指導主事の積極的な関わり

(「かながわ学力向上支援連絡協議会 2013 かながわの学びづくりプラン」より)

## 課題1

学校は、一人ひとりの児童・生徒が学んだことをしっかりと身に付けるために、自ら学ぶ習慣作りを進めることが必要です！

教科の調査問題A（主として知識に関する問題）では、全国平均正答率よりも5ポイント以上低い設問が多くありました。児童・生徒が自らの学習を振り返り、どこができるようになったのか、どこがまだ分からないのかを、自分自身で把握（自己評価）し、分からなかったことをまずは、じっくりと自分で考えることが大切です。

### 関連データ

<「教科に関する調査」より>

・国語A「漢字の読み書き」の平均正答率

【小】	H29	6問中3問が全国を5ポイント以上下回る	例	「対象」を書く
				県 35.7%
				国 42.0%
【中】	H29	6問中3問が全国を5ポイント以上下回る	例	「延期」を書く
				県 54.3%
				国 62.3%

<「児童生徒質問紙」より>

○家で、学校の授業の復習をしていますか。

【小】	県	H19 : 33.0%	→H28 : 45.7%	→H29 : 44.1%
	国	40.1%	55.2%	53.8%
【中】	県	H19 : 35.3%	→H28 : 45.3%	→H29 : 44.2%
	国	39.2%	51.0%	50.5%

○家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

【小】	県	H20 : 52.2%	→H28 : 59.5%	→H29 : 62.5%
	国	52.0%	62.2%	64.5%
【中】	県	H20 : 35.0%	→H28 : 48.1%	→H29 : 50.4%
	国	34.3%	48.4%	51.5%

<「学校質問紙」より>

○家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。

【小】	県	H26 : 72.7%	→H28 : 77.4%	→H29 : 78.6%
	国	85.4%	88.8%	89.6%
【中】	県	H26 : 58.5%	→H28 : 66.5%	→H29 : 68.9%
	国	76.9%	82.1%	82.2%

○家庭学習の取組として、児童・生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか。

【小】	県	H22 : 75.8%	→H28 : 81.4%	→H29 : 83.5%
	国	88.3%	91.9%	92.2%
【中】	県	H22 : 75.2%	→H28 : 79.9%	→H29 : 78.5%
	国	84.1%	87.8%	88.3%

## 課題2

# 学校は、全ての児童・生徒が自己肯定感を高め、夢や目標に向かう意欲をさらに高めていくことが必要です！

「自分にはよいところがある。」に対する肯定的回答は、経年変化では向上していますが、国との比較で低くなっています。また「将来の夢や目標を持っていますか。」に対する中学生の肯定的回答は、経年で下降傾向にあり、また国との比較でも低くなっています。

社会状況が変化する中、自分らしさを大切に、自立して、たくましく生き抜くためには、自己肯定感を基盤とした生涯にわたる「自分づくり」がますます重要となります。

### 関連データ

<「児童生徒質問紙」より>

○自分には、よいところがあると思いますか。

【小】 県 H19 : 68.2% →H28 : 75.5% →H29 : 77.2%

国 71.5% 76.3% 77.9%

【中】 県 H19 : 59.7% →H28 : 67.6% →H29 : 68.8%

国 60.5% 69.3% 70.7%

○人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

【小】 県 H19 : 90.7% →H28 : 93.1% →H29 : 91.9%

国 91.9% 93.8% 92.5%

【中】 県 H19 : 88.4% →H28 : 90.9% →H29 : 90.2%

国 89.6% 92.8% 91.9%

○将来の夢や目標を持っていますか。

【小】 県 H19 : 82.4% →H28 : 83.7% →H29 : 84.6%

国 83.7% 85.3% 85.9%

【中】 県 H19 : 70.4% →H28 : 68.9% →H29 : 68.4%

国 70.7% 71.1% 70.5%

○人が困っているときは、進んで助けていますか。

【小】 県 H19 : 74.6% →H28 : 84.0% →H29 : 84.4%

国 76.3% 84.6% 85.3%

【中】 県 H19 : 71.3% →H28 : 81.9% →H29 : 82.1%

国 72.4% 83.8% 84.4%

○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

【小】 県 H19 : 93.3% →H28 : 95.7% →H29 : 95.2%

国 94.7% 96.6% 96.1%

【中】 県 H19 : 85.2% →H28 : 91.2% →H29 : 90.1%

国 87.9% 93.6% 92.8%

○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

【小】 県 H26 : 78.4% →H28 : 81.1% →H29 : 84.0%

国 79.7% 82.6% 86.0%

【中】 県 H26 : 72.4% →H28 : 75.7% →H29 : 77.9%

国 74.1% 78.0% 80.4%

- ・〔設問の開始年度、中間の年度、平成 29 年度〕の 3 カ年を抽出してその数値を示しました。
- ・「児童生徒質問紙」「学校質問紙」の各数値は、それぞれの設問に肯定的な回答をした人数及び学校数の割合を%で表しています。

凡例 —●— 県（小） —■— 県（中） - -▲- - 国（小） - -×- - 国（中）

## IV 学びの充実・改善ポイント

### ポイント① 「主体的・対話的で深い学び」の視点から、学校全体での授業強みを生かす づくりをより充実しましょう。

強み1～3に示したとおり、「主体的な学び」に関して、児童・生徒の授業に対する前向きな姿勢がみられ、教員が、児童・生徒の授業に向かう熱意を感じ取って授業を行っています。「対話的な学び」に関しては、授業での活発な言語活動（話し合い活動等）により、児童・生徒の「伝えたいことを適切に話す力」が養われています。

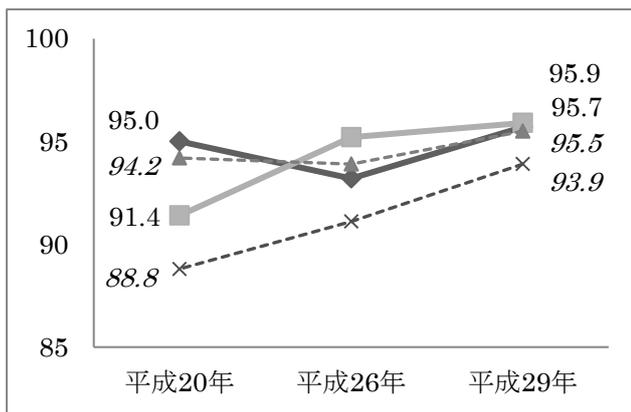
また、授業改善について、外部講師を積極的に活用した校内研修が行われており、小中連携しての授業研究が活発になっています。

そこで、これらの強みを生かしながら、今後さらに、「深い学び」の視点をもって授業改善を行っていくことが重要と考えます。

○「深い学び」に関して、次のような調査結果が見られました。

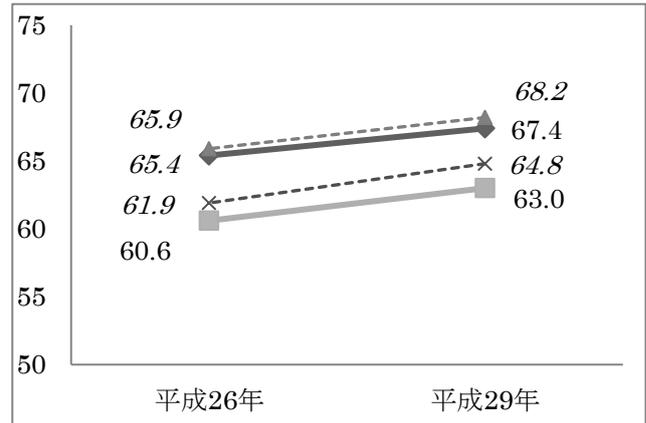
#### 学校質問紙

36, 36 様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか



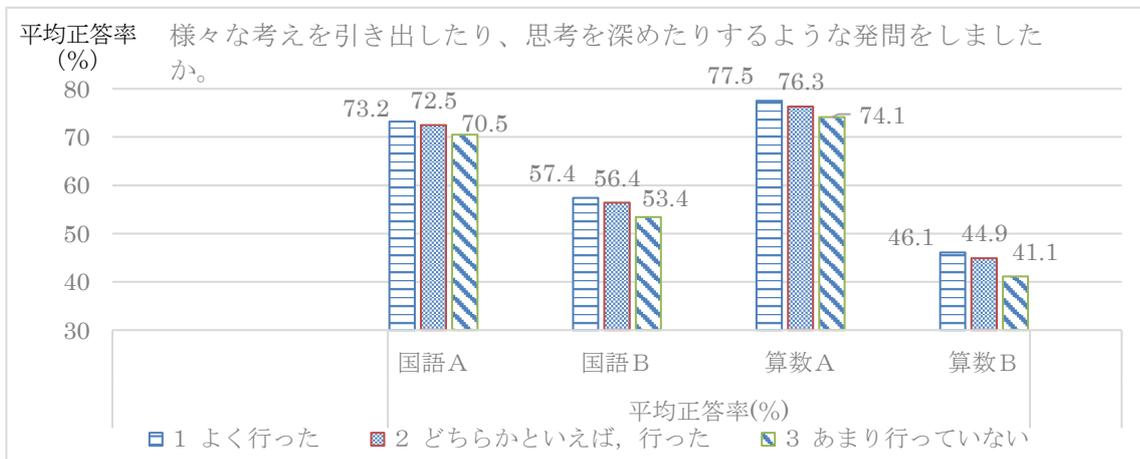
#### 児童・生徒質問紙

68, 70 学級の友達と（生徒）の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



#### <クロス集計> 小学校における学校質問紙

クロス集計では、「様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問をしていますか」に対して、肯定的な回答を示す学校の児童の平均正答率は、高いという結果が出ています。



## 新学習指導要領に示された深い学びの視点とは

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点である。

新学習指導要領解説編 総則より

## 「主体的・対話的で深い学び」とは

「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、特定の指導方法のことで、学校教育における教員の意図性を否定することでもない。人間の生涯にわたって続く「学び」という営みの本質を捉えながら、教員が教えることにしっかりと関わり、子供たちに求められる資質・能力を育むために必要な学びの在り方を絶え間なく考え、授業の工夫・改善を重ねていくことである。

(「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」中教審答申)

## 学校の取組

今後も、県の強みである、教員がお互いの授業を検討しながら学び合い、改善していく「授業研究」を基盤としながら、教員一人ひとりが主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善を図っていくことが重要です。

各学校のミドルリーダーが中心となって、経験年数の短い教職員も含めて、教職員同士が価値を見出し、共有し、面白がって、意欲的に校内研究を進めることが大切です。

### <具体的な取組例>

- 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫
- 各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けた授業づくり
- 児童・生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導の工夫
- 発言や活動の時間を確保した授業づくり
- 学級やグループ、ペア等で話し合う時間を意図的・計画的に位置付けた授業づくり
- 児童・生徒自らが学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ表現するなどの学習活動を取り入れる活動
- 資料の調べ方が身につくような指導の工夫
- 自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導の工夫
- 各教科で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすような場面の設定
- 家庭学習として、調べたり文章を書いたりしてくるような宿題の提示
- 教員自らが面白がって意欲的に取り組めるような、校内研究の工夫

**ポイント② 児童・生徒一人ひとりの学習上の困難さを的確に捉え、個に応じた指導法を工夫しましょう。**

**課題の改善**

教科調査においては、全国との比較で、主として「知識」に関するA問題において、課題が多く見られました。また、無答率も全国より高い項目が多く見られました。これらの改善のためには、児童・生徒の個々の学習状況や教育的ニーズに応じたきめの細かい指導・支援が必要です。

具体的には、少人数学習や発展的な学習、補充的な学習など、個に応じた指導を適切に実施したり、家庭学習の課題を適切に与えたりするなど、指導方法等の改善に向けた取組を行うことも大切です。

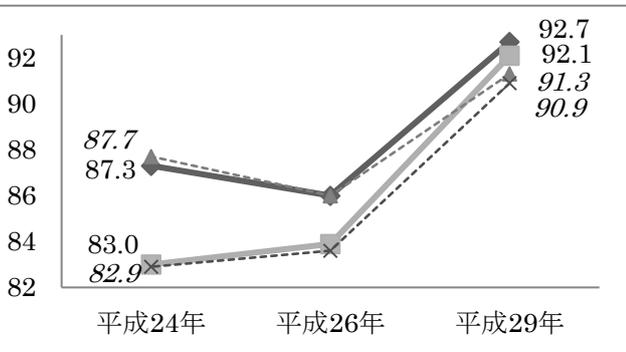
さらに、課題1で明らかとなった、一人ひとりの児童・生徒が学んだことをしっかりと身に付けるために、自ら学ぶ習慣作りを進めることが必要です。

また、特別な配慮を必要とする児童・生徒への指導についてしっかりと理解し、適切に支援をしていくことが大切です。

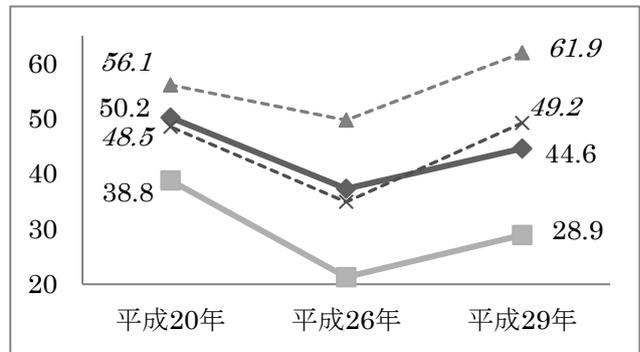
○ 児童・生徒の特性に応じた指導については、肯定的な回答が経年で伸びています。習熟度別や補充的な学習については、全国との比較で低い値を示しています。

**学校質問紙**

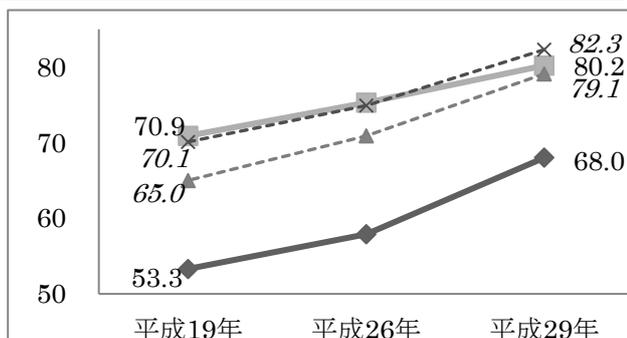
**75, 74** 学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の児童に対する授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか



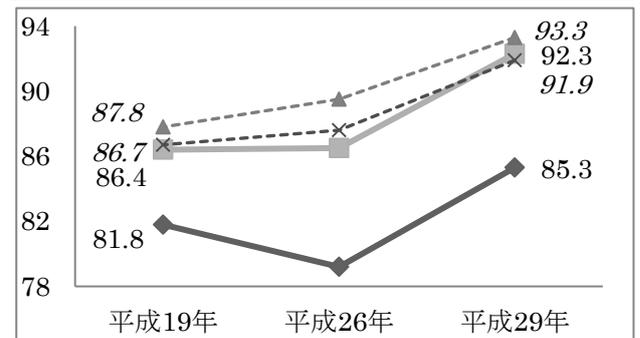
**60, 60** 算数（数学）の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか



**64, 64** 国語の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか

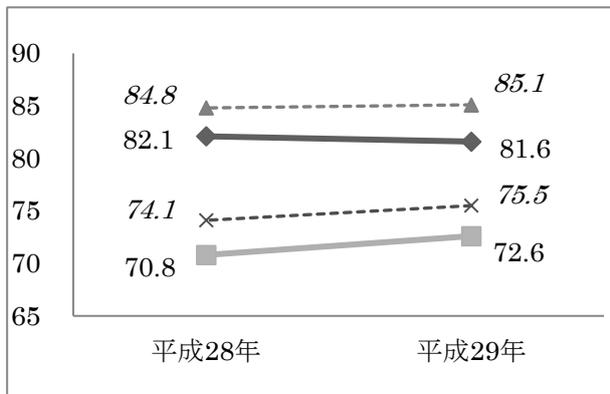


**70, 70** 算数（数学）の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか

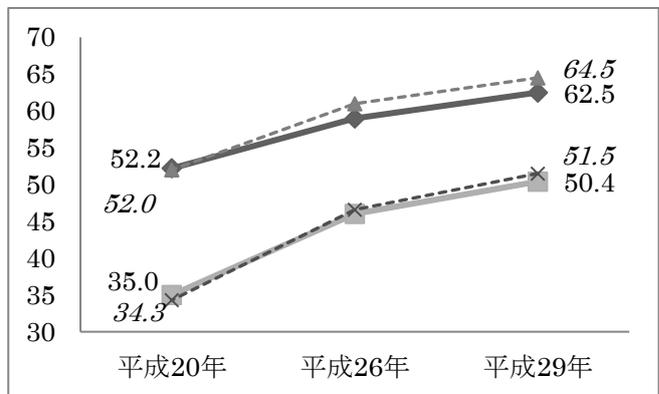


## 児童・生徒質問紙

39, 41 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくださいますか

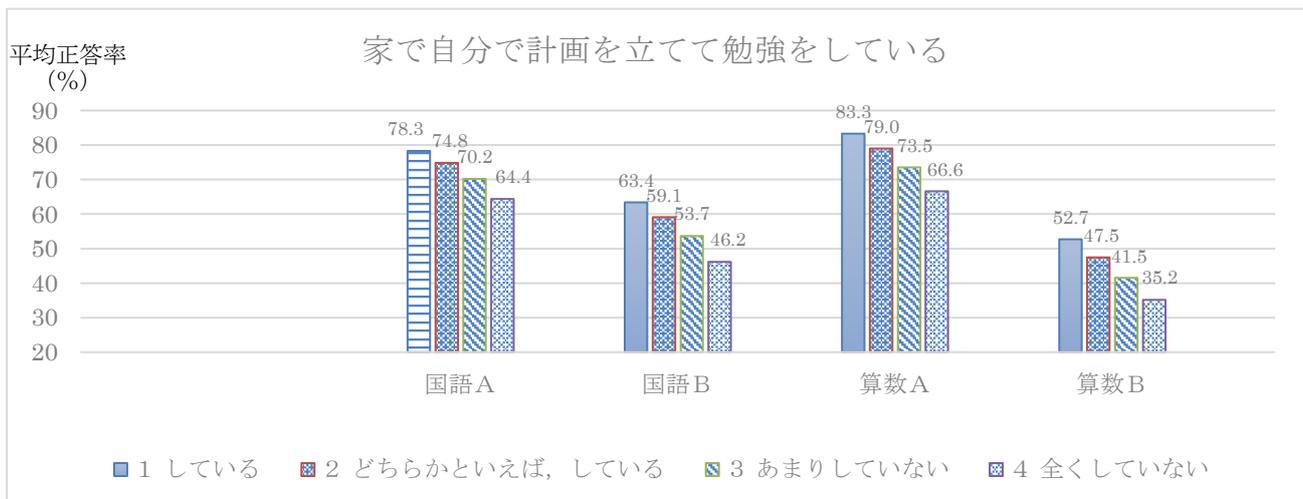


Q. 29, 31 家で、自分で計画を立てて勉強していますか



### <クロス集計> 小学校における児童質問紙

クロス集計では、「家で自分の計画を立てて勉強をしている」という質問に肯定的に回答している児童ほど平均正答率が高い結果が出ています。算数Bでは「している」と回答した児童と「全くしていない」と回答した児童の差が17.5ポイントもあります。



### 指導方法や指導体制の工夫改善など個に応じた指導の充実

児童・生徒が、基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、児童・生徒や学校の実態に応じ、個別学習やグループ別学習、繰り返し学習、学習内容の習熟の程度に応じた学習、児童・生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れることや、教師間の協力による指導体制を確保することなど、指導方法や指導体制の工夫改善により、個に応じた指導の充実を図ること。その際、第3の1の(3)に示す情報手段や教材・教具の活用を図ること。

(新学習指導要領解説編 総則より)

## 児童・生徒の障害の状態等に応じた指導の工夫

障害のある児童・生徒などについては、特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ、個々の児童・生徒の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。

(新学習指導要領解説編 総則より)

## 学校の取組

「自分がどこが分かっている、どこが分からないか」といったことを子ども自身が自覚し、自主的に学習ができるようになるためには、学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりする活動を積み重ねていくことが重要です。そうすることの価値に子ども自身が気づくことが、学びに向かう力を育みます。

また、子どもたちの資質・能力の育成にあたっては、それぞれの発達や学習の課題などを踏まえ、それぞれの特性に応じた学びを引き出し、一人ひとりの資質・能力を高めていくという視点をもつことが重要です。

### <具体的な取組例>

- 授業の中に目標（ねらい、めあて）を示す活動を計画的に取り入れる
- 学習したことを振り返って次につなげる活動を計画的に取り入れる
- 自分が何が分かって何がまだ分かっていないかを意識できるような活動を計画的に取り入れる
- 家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解をはかる
- 家庭学習の中に自主的な課題に取り組む自学ノート等の取組を行う
- 児童・生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教える
- 習熟度の状況に応じた指導方法、指導体制等の工夫を図る(少人数、TT等)
- 障害等に関する知識や配慮等についての正しい理解と認識を深めて授業改善に生かす

## ここに注目！

### 自学自習のサイクルづくり

学校では、一人ひとりの児童・生徒が授業以外の場で、自らの学習を進めることができるよう、そのきっかけを与えたり、方法を丁寧に教えたりする等、補充学習や家庭学習を含め、個に応じてきめ細かく導くことが必要です。

一人ひとりの児童・生徒が学んだことをしっかり身に付けるために、

- ① 自分の学習状況（何が分かっている、何が分かっていないのか）を客観的に把握すること
- ↓
- ② そして苦手克服のための学習の手立て（学習の方法）について知ること
- ↓
- ③ 次に、先を見通して、自分で計画した自学自習を進めるための手立てを知ること
- ↓
- ④ 最後に自己評価や教員の評価(励まし等)により、この自学自習のサイクルは回っていきます。

## 発達障害のある児童・生徒の学習上の困難さについて

発達障害のある児童・生徒については

- ・「読む」「書く」「聞く」「計算する」などの学習に必要な能力の習得が困難
- ・同世代の児童・生徒に比べ著しく注意力がない
- ・同世代の児童・生徒に比べて著しく多動性・衝動性がある

など、一人一人について障害の状態が異なり、教科学習等に大きな困難を抱えることがあります。

【読むことが困難な例】

知的や視覚・聴覚に問題は無いが、文字が下図のように見えるケースがあります。



その他

- ・長い文章を正確に早く読むことが困難
- ・音読が遅い
- ・逆さ読みをする「36」⇒「63」
- ・字の形を混同する「はし」と「ほし」 などがああります。

文部科学省  
音声教材普及推進会議HP資料より

### 学習障害のある児童・生徒への通常の学級における指導

通常の学級においては、学習障害のある子供について、適切な配慮の下に指導が行われる必要がある。指導を担当する教員は、学習障害のある子供の実態の把握に努め、通級による指導における指導方法等を参考にするとともに、チームティーチングや個別指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導、教材・教具などの工夫を行うことも重要である。

読み書きに困難がある場合は、板書だけで説明するのではなく、必ず読み上げて分かりやすく説明したり、ノートに写すべき部分を色分けしたりするなどの配慮が効果的である。また、計算が苦手な場合に、練習問題の量を減らすなどの工夫も考えられる。

「教育支援資料」（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課）より

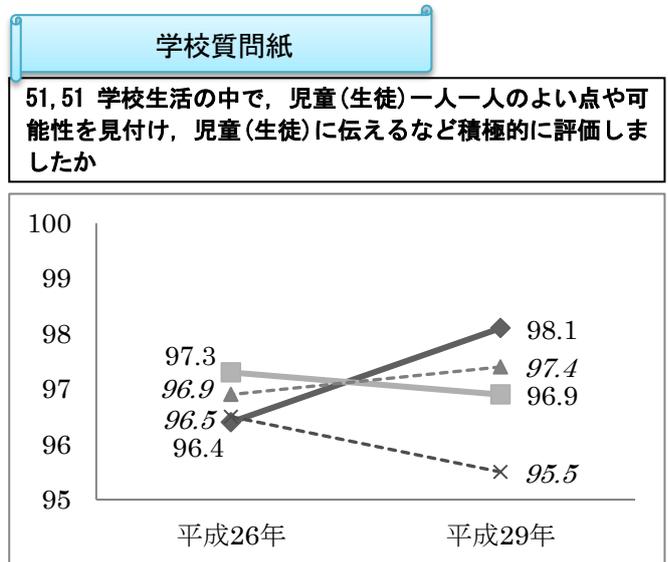
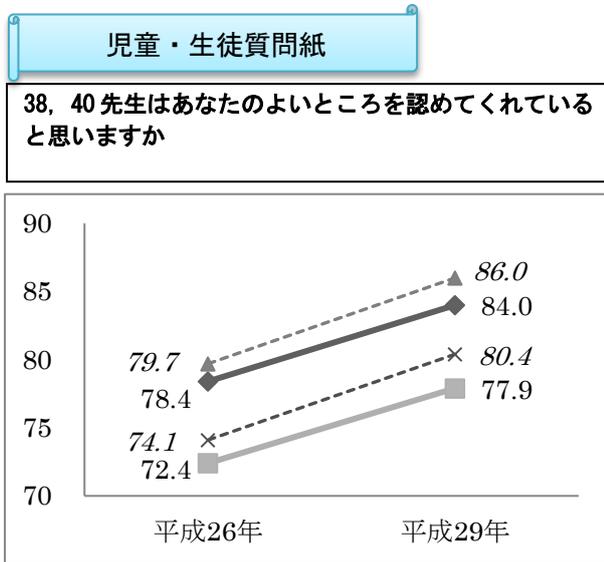
- 児童・生徒の障害の状態をしっかりと理解して、適切な支援を進めていく必要があります。

**ポイント③ 児童・生徒の視点に立った授業づくり、学校づくりを、家庭・地域とともに進めましょう。**

課題2に見られた自己肯定感の改善を進めるためには、児童・生徒が主体的に関わることができる教育活動を進め、教員は其中で、一人ひとりのよい点や可能性を認める視点をもつことが大切です。

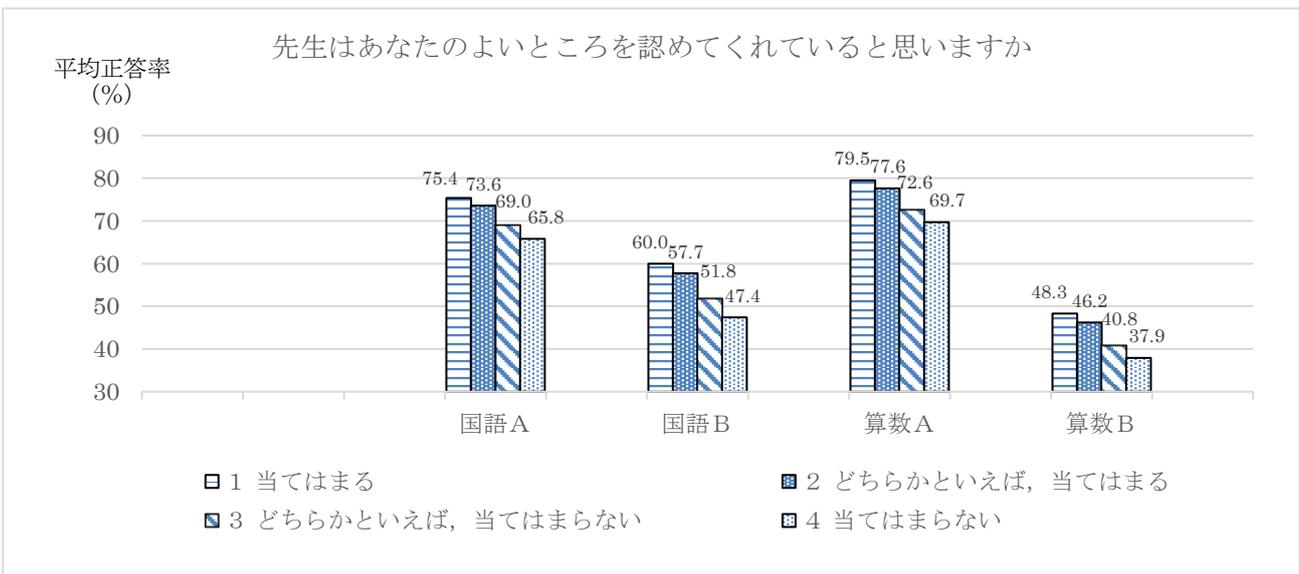
さらに、児童・生徒の自己肯定感の醸成は、学校に加え、家庭でも地域でも全ての大人が意識して取り組んでいくことが必要です。

- 児童・生徒の質問紙調査「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」について肯定的な回答をした児童生徒は、小・中学校とも全国の平均よりは下回るものの経年では伸びが見られます。
- また、学校質問紙の「学校生活の中で、児童（生徒）一人一人のよい点や可能性を見付け、児童（生徒）に伝えるなど積極的に評価しましたか」という質問に対する肯定的な回答は、小・中学校とも全国平均を上回っています。



**<クロス集計> 小学校における児童質問紙**

- クロス集計においては、「先生はあなたのよいところ認めてくれていると思いますか」に対して、「当てはまる」と回答をしている児童の方が、「当てはまらない」と回答している児童より各教科における平均正答率が高いという結果が出ています。



## 子どもの視点に立つということ

（教育課程が、学校と社会や世界との接点となり、さらには、子供たちの成長を通じて現在と未来をつなぐ役割を果たしていくことが実現されるためには）まず学習する子供の視点に立ち、教育課程全体や各教科等の学びを通じて「何ができるようになるのか」という観点から、育成を目指す資質・能力を整理する必要がある。その上で、整理された資質・能力を育成するために「何を学ぶか」という、必要な指導内容等を検討し、その内容を「どのように学ぶか」という、子供たちの具体的な学びの姿を考えながら構成していく必要がある。

（「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」中教審答申）

## 自己肯定感を育むことの重要性

○ 夢や希望に向かい、自らを律して困難を乗り越え、未来をたくましく切り拓ひらくことや、自己と社会の未来を創る強い意志をもち、変化をおそれず主体的に行動すること、さらに、自己への自信と人への思いやりをもって、心豊かでしなやかに生きることのできる力を備えることが重要です。そのためには、まわりの人から「大切にされている」と感じながら、育てられることが必要です。そこから生まれる安心感や信頼感に根ざして、自らをありのままの姿で受容できる自己肯定感をはぐくんでおかなければなりません。

（かながわ教育ビジョンより）

## 学校の取組

「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の主語はいずれも児童・生徒であり、『子どもの視点に立つ』ということは、今回の学習指導要領改訂の重要なポイントです。そこで、普段の授業づくりにおいても、まずは目の前の児童・生徒の実態を様々な方法でしっかりと把握し、児童・生徒の目線から授業づくり、授業改善を図っていくことが重要です。そのことが、児童・生徒が主体となって関わることにつながっていきます。

また、自己肯定感は子どもの成長の基盤となります。まずは、教員や保護者、地域の大人が積極的に児童・生徒に関わりながら、少しでも自信を持てるようにしていけるよう適切に支援していくことが大切です。

### <具体的な取組例>

- 児童・生徒一人ひとりのよい点や可能性を見つけ、肯定的に捉える視点をもった指導をする
- 学習前に児童・生徒の知識・理解の状況を把握する
- 単元の取組の中で児童・生徒が「何ができるようになるのか」ということを明確にする
- 全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校の職員全員で共有する
- 分析を基に具体的な教育活動の改善につなげていく
- 家庭・地域との協働による教育活動の実施
- 「いのちの授業」の充実

## V 平成 29 年度全国学力・学習状況調査 神奈川県公立小・中学校調査結果 (詳細)

### 1 平成 29 年度全国学力・学習状況調査の概要

資料 3 ページに記載のとおり。

### 2 本調査結果の解釈等に関する留意事項

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が国語、算数・数学の 2 教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要である。

出典：平成 29 年度全国学力・学習状況調査 報告書（文部科学省 国立教育政策研究所）

### 3 「教科に関する調査」結果の見方

本調査の「教科に関する調査」結果で示されている本県の平均正答率については、次の 2 つの観点から踏まえ整理している。

\* 平均正答率 80%以上…成果として認められる。

\* 平均正答率 70%未満…課題として考えられる。

出典：全国学力・学習状況調査の 4 年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ

(平成 24 年 3 月 文部科学省 国立教育政策研究所)

\* 全国の平均正答率(公立)の±5%の範囲内であれば、全国と大きな差は見られなかったと考える。

出典：平成 29 年度全国学力・学習状況調査 報告書（文部科学省 国立教育政策研究所）

## 4 教科に関する調査の結果（全県）

### （1）結果の概要

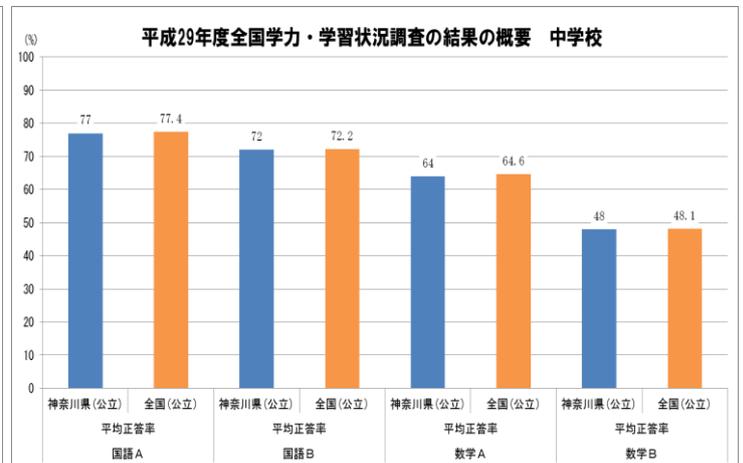
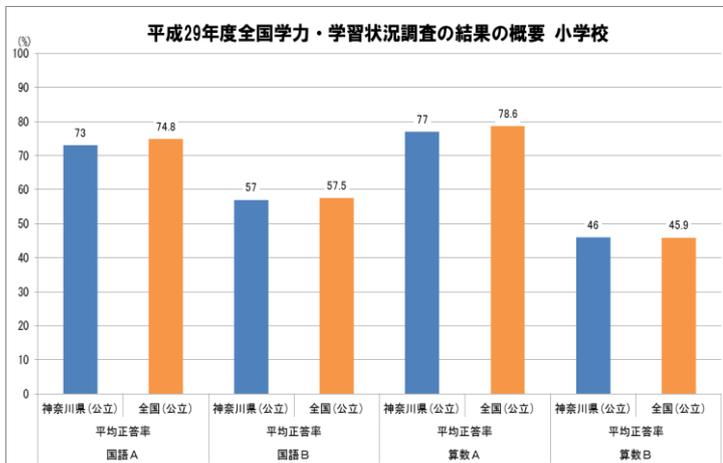
#### ア 平均正答数・平均正答率

平成29年度	小学校調査								中学校調査							
	国語				算数				国語				数学			
	A（15問）		B（9問）		A（15問）		B（11問）		A（32問）		B（9問）		A（36問）		B（15問）	
	正答数 (問)	正答率 (%)														
全 国	11.2	74.8	5.2	57.5	11.8	78.6	5.1	45.9	24.8	77.4	6.5	72.2	23.3	64.6	7.2	48.1
神奈川県	11.0	73	5.2	57	11.6	77	5.1	46	24.7	77	6.5	72	23.0	64	7.2	48
全国との差	-0.2	-1.8	0	-0.5	-0.2	-1.6	0	0.1	-0.1	-0.4	0	-0.2	-0.3	-0.6	0	-0.1
県 域	10.7	71	4.9	55	11.2	75	4.7	43	24.4	76	6.4	71	22.6	63	7.1	47
全国との差	-0.5	-3.8	-0.3	-2.5	-0.6	-3.6	-0.4	-2.9	-0.4	-1.4	-0.1	-1.2	-0.7	-1.6	-0.1	-1.1

（文部科学省平成29年度全国学力・学習状況調査の結果をもとに子ども教育支援課が作成）

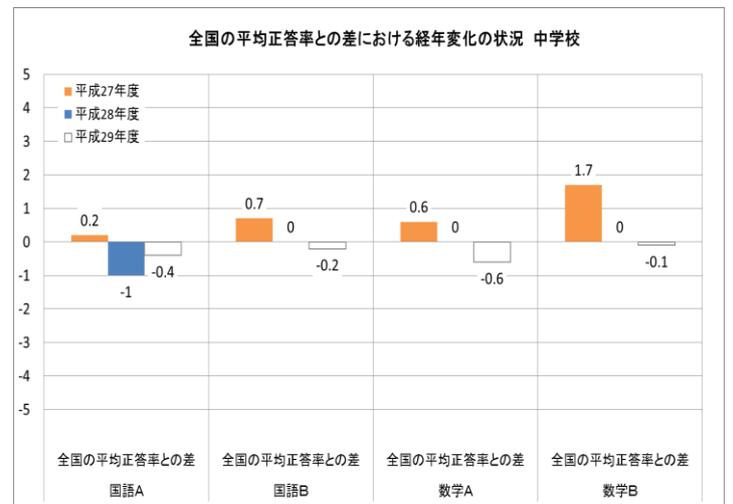
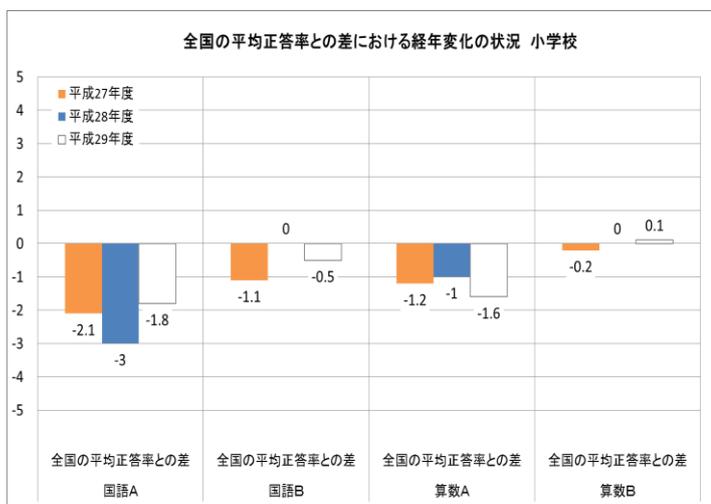
\* 県域は政令指定都市（横浜市、川崎市、相模原市）を除いた地域。

\* 今年度、県及び県域の平均正答率は、国から整数値で提供された。



・全教科において、全国公立学校の平均正答数・平均正答率と大きな差は見られなかった。

#### イ 平均正答率における経年変化の状況（直近3年間）（全県）



\* 平成27年度は国、県ともに小数値での比較。平成28年度は国、県ともに整数値での比較。  
平成29年度は国：小数値、県：整数値による比較。

（文部科学省平成29年度全国学力・学習状況調査の結果をもとに子ども教育支援課が作成）

## (2) 教科別の特徴

### ア 小学校 国語

#### (ア) 平均正答率が高かった事項

- ① 学年別配当表に示されている漢字を正しく読むこと
  - 漢字を読む設問
    - ・期限(神奈川県：92.6% 全国：94.5%)
    - ・指示(神奈川県：92.3% 全国：94.5%)
- ② ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いること
  - ことわざの使い方の例として適切なものを選択する設問
    - ・「三度目の正直」(神奈川県：89.8% 全国：90.0%)

#### (イ) 平均正答率が低かった事項

- ① 自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えること
  - 「きつねの写真」を読んだ後の話し合いにおけるア・イの発言の意図として、適切なものをそれぞれ選択する設問(神奈川県：31.3% 全国：28.0%)
- ② 目的に応じ、必要な内容を整理して書く
  - 「水やりに協力してくれる人をぼ集めます」の[ イ ]に入る内容を、中学生からの【アドバイス】を基に書く設問(神奈川県：32.3% 全国：33.0%)

#### (ウ) 全国公立学校の平均正答率より5ポイント以上低かった事項

- 学年別配当表に示されている漢字を書くこと
  - 書くこと：対 象 (神奈川県：35.7% 全国：42.0%)
  - 希 望 (神奈川県：73.0% 全国：80.0%)
  - 置いて (神奈川県：70.8% 全国：76.8%)

#### (エ) 改善の手立て

- ① 漢字の指導については、学習した漢字を字形に注意しながら繰り返し書いて練習するのみならず、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるように指導することが大切です。
- ② 「必要な内容を整理する」とは、目的に応じて収集した情報を共通点や相違点に着目してまとめたり、見出しをつけたりすることが考えられます。それらを、文章の種類や特徴を踏まえ、書く内容や分量などを考えて書くというような学習活動の工夫することが考えられます。
- ③ 物語を読んで感想を伝え合う際には、相手の考えがどの叙述に基づいているのかを確認することや、「自分の考えについて、友達の意見を聞きたい」「分からないことを相談したい」など児童一人ひとりが交流の目的をもつことができるように指導することが大切です。

### イ 中学校 国語

#### (ア) 平均正答率が高かった事項

- ① 文脈に即して漢字を正しく読むこと
  - 漢字を読む設問：覚悟(神奈川県：98.3% 全国：98.7%)
- ② 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと
  - 適切な語句を選択する設問(私は映画が大好きです。ただし、映画なら何でも見るわけではありません)(神奈川県：95.5% 全国：95.5%)

(イ) 平均正答率が低かった事項

- ① 事象や行為などを表す多様な語句について理解すること
  - 話合いの記録として適切な言葉を考える設問(神奈川県：35.5% 全国：35.8%)
- ② 表現の仕方について捉え、自分の考えを書く
  - 比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く設問  
(神奈川県：42.0% 全国：41.4%)

(ウ) 全国公立学校の平均正答率より5ポイント以上低かった事項

- 文脈に即して漢字を正しく書くこと
  - 書くこと：規模(神奈川県：56.0% 全国：62.8%)
  - 延期(神奈川県：54.3% 全国：62.3%)
  - 営む(神奈川県：78.4% 全国：85.4%)

(エ) 改善の手立て

- ① 漢字については、学習した漢字を意識して日常生活で使用するよう指導することが大切である。また、必要に応じて辞書を引くなどして、文脈の中でどのような意味で用いられているかを理解しながら読むよう指導することも大切である。
- ② 文学的な文章を読んで感じたことや考えたことを交流する学習では、印象に残った場面や描写を取り上げ、なぜその場面や描写が印象に残ったかを説明するだけでなく、取り上げた場面や描写がどのような内容であるかを明確にしたり、感じたことや考えたことを具体的に説明したりすることが大切です。

ウ 小学校 算数

(ア) 平均正答率が高かった事項

- ① 具体的な問題場面において乗法で表すことができる二つの数量の関係を理解している
  - リボンを2m買ったときの代金と3m買ったときの代金を書く設問  
(神奈川県：96.9% 全国：96.9%)
- ② 小数の乗法の計算において、乗数を整数に置き換えて考えるときの、乗法の性質を理解している
  - $60 \times 0.4$ を、 $60 \times 4$ を基にして考えるときの、正しい積の求め方を選ぶ設問  
(神奈川県：90.9% 全国：91.0%)

(イ) 平均正答率が低かった事項

- ① 身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述できる
  - 与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、「最大の満月の直径」に近い硬貨を選び、選んだわけを書く設問(神奈川県：14.8% 全国：13.2%)
- ② 仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述できる
  - 仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める設問  
(神奈川県：23.4% 全国：26.1%)

(ウ) 全国公立学校の平均正答率より5ポイント以上低かった事項

- ① 加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができること
  - $6 + 0.5 \times 2$ を計算する設問(神奈川県：60.4% 全国：66.6%)

### (エ) 改善の手立て

- ① 日常生活の事象を、割合を活用して数学的に解釈するためには、数量の関係を身近なものや図などに置き換えて、基準量・比較量・割合の関係を的確に捉え判断することが大切です。
- ② 測定値の平均を求める際は、平均がおよそどのくらいになるのかを見積もったり、能率的に処理するために工夫して計算したりすることが大切です。
- ③ 計算の順序についてのきまりは、単に暗記するだけではなく、具体的な場面と関連付けながら理解できるようにすることが大切です。また、図に表し比較することで、計算のきまりについて確認する活動も考えられます。

## エ 中学校 数学

### (ア) 平均正答率が高かった事項

- ① 円錐が回転体としてどのように構成されているかを理解している  
○ 1回転させると円錐ができる平面図形として正しいものを選ぶ設問  
(神奈川県：90.2% 全国：90.1%)
- ② 平行移動した図形をかくことができる  
○  $\triangle ABC$ を、点Aから点Pに移すように平行移動した図形をかく設問  
(神奈川県：89.7% 全国：90.6%)

### (イ) 平均正答率が低かった事項

- ① 2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することができる  
○ 四角形ABCDの模様が1回の回転移動によって四角形BEFGの模様に重なるとき、どのような回転移動になるかを説明する設問(神奈川県：14.7% 全国：14.0%)
- ② 事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる  
○ 六角形をn個つくるのに必要なストローの本数を、 $6 + 5(n - 1)$ という式で求めることができる理由を説明する設問(神奈川県：15.4% 全国：14.5%)

### (ウ) 全国公立学校の平均正答率より5ポイント以上低かった事項

- ① 加減乗除を含む正の数と負の数の計算において計算のきまりに従って計算できる  
○  $10 - 6 \div (-2)$ を計算する設問(神奈川県：70.1% 全国：75.6%)
- ② 与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求めることができる  
○ 6月1日から30日までの記録を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める設問(神奈川県：39.4% 全国：45.5%)

### (エ) 改善の手立て

- ① 日常的な事象において、前提とそれによって説明される結論の両方を説明する場面を設定し、数量や図形に着目して見いだした事象の特徴を数学的に表現できるように指導することが大切です。
- ② 事象が成り立つ理由を事象に即して説明できるよう指導することが大切です。その際、事柄の意味を事象に即して読み取り、読み取った意味に基づいて、根拠を明らかにすることが大切です。
- ③ 正の数と負の数の範囲で、計算のきまりにしたがって確実に計算できるように指導することが大切です。誤りのある計算を示し、正しい計算の仕方を確認する場面を設定することが考えられます。
- ④ ある階級の度数の総度数に占める割合を求めて、資料の傾向を読み取る活動を取り入れ、相対度数の必要性和意味について理解できるように指導することが大切です。

## 5 質問紙調査の結果

### (1) 児童生徒質問紙調査の結果

#### ア 全国に比べ高い数値を示した事項

- ① スマートフォン等の使い方について家の人と約束したことを守っている。  
【小学校】神奈川県 54.8% 全国 48.7% (+6.1)  
【中学校】神奈川県 57.8% 全国 50.6% (+7.2)
- ② 将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたいと思う。  
【小学校】神奈川県 37.7% 全国 33.6% (+4.1)  
【中学校】神奈川県 39.0% 全国 32.9% (+6.1)
- ③ 土曜日曜など学校が休みの日に、1日2時間以上勉強する(塾等も含む)。  
【小学校】神奈川県 27.2% 全国 24.6% (+2.6)  
【中学校】神奈川県 44.2% 全国 41.8% (+2.4)
- ④ 平日、2時間以上部活動を行う。  
【中学校】神奈川県 65.6% 全国 55.6% (+10.0)

#### イ 全国に比べ低い数値を示した事項

- ① 今住んでいる地域の行事に参加している。  
【小学校】神奈川県 55.2% 全国 62.6% (-7.4)  
【中学校】神奈川県 35.1% 全国 42.1% (-7.0)
- ② 家で、学校の授業の復習をしている。  
【小学校】神奈川県 44.1% 全国 53.8% (-9.7)  
【中学校】神奈川県 44.2% 全国 50.5% (-6.3)
- ③ 学校図書館や地域の図書館に、週に1回以上行く。  
【小学校】神奈川県 9.9% 全国 15.6% (-5.7)  
【中学校】神奈川県 7.0% 全国 8.1% (-1.1)
- ④ 5年生までに(1, 2年生で)受けた授業で、ノートに学習目標とまとめを書いていたと思う。  
【小学校】神奈川県 85.3% 全国 88.7% (-3.4)  
【中学校】神奈川県 72.4% 全国 80.3% (-7.9)
- ⑤ 5年生までに(1, 2年生で)受けた道德の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思う。  
【小学校】神奈川県 75.2% 全国 78.5% (-3.3)  
【中学校】神奈川県 68.2% 全国 76.0% (-7.8)

### (2) 学校質問紙調査(小学校及び中学校)の結果

#### ア 全国に比べ高い数値を示した事項

- ① ボランティア等による授業サポート(補助)を行った。  
【小学校】神奈川県 61.4% 全国 49.9% (+11.5)  
【中学校】神奈川県 40.5% 全国 31.4% (+9.1)

② 前年度までに、近隣等の中（小）学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った。

【小学校】神奈川県 75.7% 全国 65.6% (+10.1)

【中学校】神奈川県 81.6% 全国 74.8% (+6.8)

③ 個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の教員同士の授業研究の場に定期的・継続的に参加している。

【小学校】神奈川県 89.3% 全国 85.5% (+3.8)

④ 調査対象学年の児童（生徒）は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思う。

参考【小学校】神奈川県 59.9% 全国 63.0% (-3.1)

【中学校】神奈川県 69.4% 全国 61.2% (+8.2)

⑤ 調査対象学年の児童（生徒）は、学級やグループでの話し合いなどの活動で自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。

【小学校】神奈川県 73.0% 全国 71.7% (+1.3)

【中学校】神奈川県 80.9% 全国 72.9% (+8.0)

## イ 全国に比べ低い数値を示した事項

① 調査対象学年の児童（生徒）に対して、算数（数学）の授業において、前年度に習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱った。

【小学校】神奈川県 33.7% 全国 55.0% (-21.3)

【中学校】神奈川県 24.9% 全国 43.6% (-18.7)

② 調査対象学年の児童（生徒）に対して、算数（数学）の授業において、前年度に習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにした。

【小学校】神奈川県 44.6% 全国 61.9% (-17.3)

【中学校】神奈川県 28.9% 全国 49.2% (-20.3)

③ 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度に、長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施した。

【小学校】神奈川県 33.6% 全国 64.2% (-30.6)

参考【中学校】神奈川県 87.1% 全国 80.8% (+6.3)

④ 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施した。

【小学校】神奈川県 30.1% 全国 61.1% (-31.0)

参考【中学校】神奈川県 84.0% 全国 83.0% (+1.0)

⑤ 平成28年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小（中）学校と成果や課題を共有した。

【小学校】神奈川県 42.1% 全国 53.0% (-10.9)

【中学校】神奈川県 41.8% 全国 56.8% (-15.0)

## VI 学びの充実・改善に向けて参考となる情報

### 神奈川県教育委員会の主な取組等 参考URL

神奈川県教育委員会では、学びの充実・改善に向けて次のような取組を進めています。各学校での取組の参考としてください。

#### ■学びづくり推進地域研究委託事業（H20～）

市町村において、学習指導の成果や課題を明確にし、学力向上や学周意欲の向上、学習に関する学校や家庭、地域の役割や連携について研究する。

＜必携 かながわの学びづくり＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f534702/>

＜かながわ学びづくり推進地域の取組について＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f534289/>

＜「確かな学力を育てるために」学習評価を踏まえた授業づくりの道すじ＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f417749/>

＜学習評価関連資料＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6679/>

＜小学校・中学校「関心・意欲・態度」を育てるための学習評価を踏まえた授業づくり 実践事例集＞

[http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kankoubutu/h27/pdf/27002\\_学習評価.pdf](http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kankoubutu/h27/pdf/27002_学習評価.pdf)

＜学習評価を踏まえた授業づくりのために＞

[http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kankoubutu/h26/pdf/26001\\_学習評価.pdf](http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kankoubutu/h26/pdf/26001_学習評価.pdf)

#### ■かながわ学力向上シンポジウム（H19～）

学校、家庭、地域の教育力の向上に資するテーマを設定し、幅広い参加者を募り意見交換等を行うことで、学校教育への理解を図る。

＜かながわの学びづくりプラン＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f300518/>

#### ■小中一貫教育推進事業（H27～）

少子化に伴う学校の再編統合を検討している市町村への支援を含め、県全体として質の高い教育を維持向上させていくための方策として、小中一貫教育校の推進に取り組む。

＜小中一貫教育の推進について＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f533778/>

＜学校運営の重点、学校教育指導の重点及び各教科等の指導の重点＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6685/>

#### ■コミュニティ・スクール（H22～）

学校と地域住民・保護者が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」に転換するための仕組みにより、地域ならではの創意や工夫を生かした特色ある学校づくりを推進する。

## ■子ども一人ひとりの学びづくり支援システム開発事業（H29～）

全国学力・学習状況調査の結果から、特に小学校において、学習内容の基礎的・基本的な知識や技能の定着、また、家での復習や自学自習において課題があることが明らかとなった。そこで、小学校において、一人ひとりの児童の自学自習の習慣作り及び基礎的・基本的な知識や技能の定着に向けたPDCAサイクルの確立を目指す。

## ■課題解決教材（H24～H29）

児童・生徒の一人ひとりの学習課題の解決に役立てるため、神奈川県公立小・中学校学習状況調査実施後に見えてきた学習課題を解決するための練習問題やワークシートなどの教材を作成し、ホームページに掲載することで、事後指導の取り組みの改善を図る。

<Let' s challenge!課題解決教材>

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f417579/>

## ■国立教育政策研究所「授業アイデア例」の活用一覧表（H29～）

国立教育政策研究所が作成した「授業アイデア例」を、学年別・領域別に整理し、授業の改善・充実に役立てることができるよう一覧表にまとめ、ホームページに掲載した。

<全国学力・学習状況調査の結果について>

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f531252/>

<国立教育政策研究所 教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」>

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

## ■自己肯定感を高めるための支援プログラム（H30～）

全ての子ども・若者の未来を信じて、そして、神奈川で生まれ、育った子ども・若者たちが、自己肯定感をもってほしいという願いのもと、「見つける→気づく→関わる」というプロセスからなるプログラムを作成しました。

<自己肯定感を高めるための支援プログラム>

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f536823/>

## ■かながわ元気な学校ネットワークの推進（H23～）

産・官・学・民からの委員で構成する「かながわ元気な学校ネットワーク推進会議」（H23.8 設置）を推進母体に、すべての子どもたちを元気にし、教職員・保護者も、さらに地域の人たちも元気にするような学校づくりを推進する。

<かながわ元気な学校づくり通信「はにい」>

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f420082/>

<かながわ「いのちの授業」>

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f417796/>

## ■学級経営支援事業（H27～）

小学校における学級経営の充実に向け、経験豊かな退職教員を非常勤講師として派遣し、課題を抱える児童や学級に対し、継続的指導・支援を行い、問題行動等の未然防止を図るとともに、その成果について周知する。

<子どもが輝く学級経営につながる学級担任の指導のポイント>

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f535066/>

## ■その他関連資料

<インクルーシブな学校づくり Ver. 1.0>

<http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kankoubutu/h27/pdf/インクルーシブリーフレット.pdf>

<支援を必要とする児童・生徒の教育のために（平成29年3月版）>

[http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/Snavi/soudanSnavi/tameni\\_h29\\_3.html](http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/Snavi/soudanSnavi/tameni_h29_3.html)

<外国につながるのがある児童・生徒への指導・支援の手引き>

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f420361/>

<手話啓発リーフレット「手話を楽しく学ぼう」>

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f535303/>

<いじめ問題への対応について>

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f470374/>

<いじめを絶対に許さない—緊急アピール—>

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f420446/>

<神奈川県児童・生徒の問題行動等調査の結果について>

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7508/>

<子どもの安全を守る6つの点検>

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f532524/>

<いじめのない学校づくりのために～小学校・中学校・高等学校・特別支援学校  
校種を越えたメッセージ～>

<http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/Snavi/kadaiSnavi/pdf/いじめのない学校づくりのために.pdf>

<資料「わたくしたちの生活と進路」について>

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6687/>

<指導資料「小・中学校における政治的教養を育む教育」>

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f537244/>

<県立総合教育センターの刊行物一覧>

<http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kankoubutu/index.html>